

一茶ゆかりの里四季の俳句会 (平成二九年七月～九月分)

選者 高山俳壇 勝山久峰 先生

特選 天 遅れ来てすんなり入る踊りの輪 群馬県 滝沢照香

遅れ来ても踊りの輪へすんなり入るのが自然然的て抵抗のないユーモアのある会心作

特選 地 空蟬の爪の先まで力込め 群馬県 鈴木百合子

空蟬爪魂はまだ生きていて空を飛び舞ふ本体を見守っている力強さが残っている愛情のある一句

特選 人 健やかと云ふ幸せの汗を拭く 群馬県 篠原庄治

人生は健康が第一である幸せの汗がこの句にぎっしり詰まっている

入選 雨よ降れ葉裏に小さき蝸牛 群馬県 竹刈てる子

入選 蟬の声力抜かずに生尽くす 群馬県 竹刈千恵子

入選 盆花を供へ手合す三才児 群馬県 土屋はじめ

入選 さくらんぼ乳の匂ひの嬰欠伸 愛知県 平野辰美

入選 ぞんさいにされてはたらく麦わら帽子 神奈川県 畑井貴晶

入選 夏の雲亡き母にも似父にも似 群馬県 山口岩美

入選 林檎噛むここは一茶の忘れ里 長野市 近藤終雨